

倶多楽の火山活動解説資料（令和元年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

5日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、地獄谷爆裂火口をはじめ、各火口の状況および噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

また、30日に実施した現地調査では、笠山周辺で認められている地中温度上昇に伴って植生が枯れている領域に、前回（7月）と比較して大きな変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②、図5）

10日から11日にかけて、日和山の北約4km付近で地震が一時的に増加し、最大規模の地震（M¹⁾ 3.2）により、登別市、胆振伊達市および白老町で震度1を観測しました。12日以降は少ない状態で経過しています。この地震の前後で、火山活動に特段の変化は認められません。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図1-③）

GNSS連続観測では、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

1) M（マグニチュード）は地震の規模をあらわします。この値は暫定値で、後日変更することがあります。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和元年9月分）は令和元年10月8日に発表する予定です。

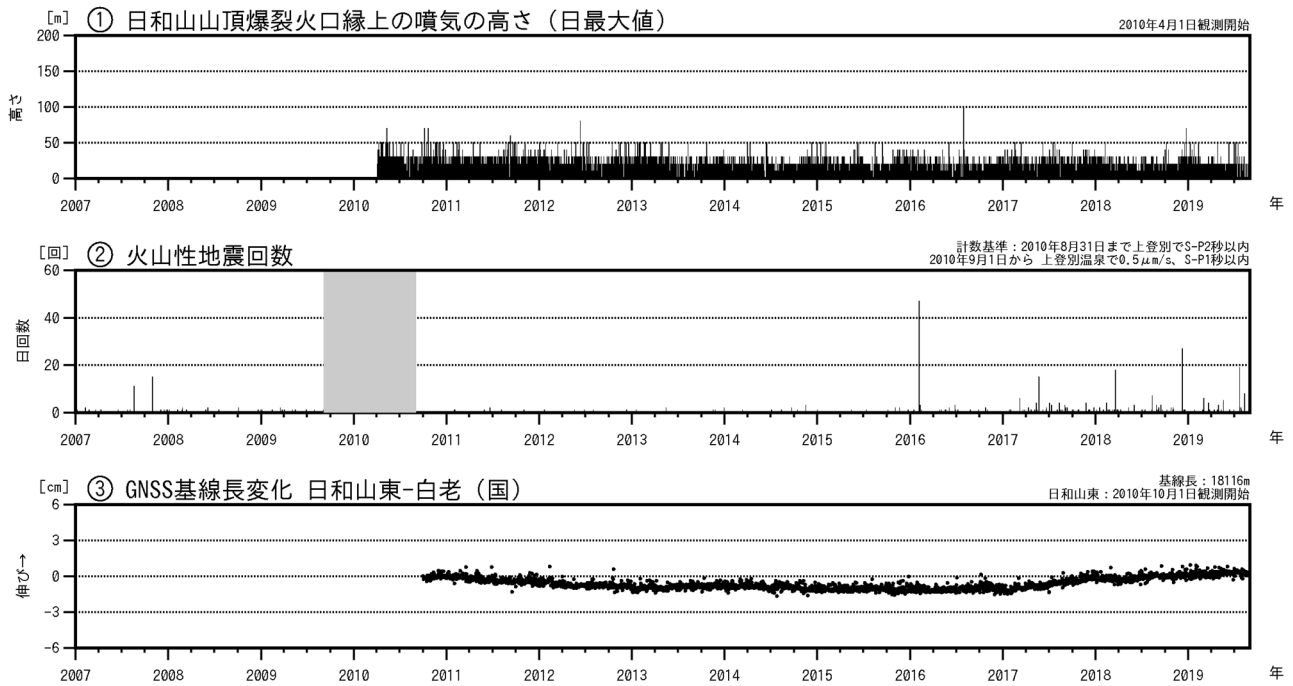
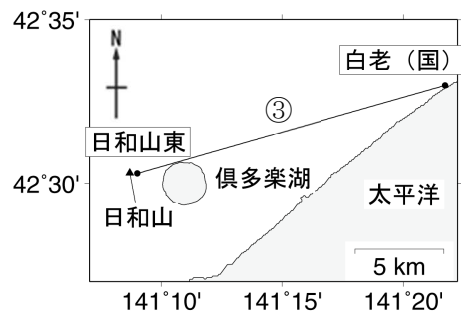


図1 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2019年8月）

- ②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。

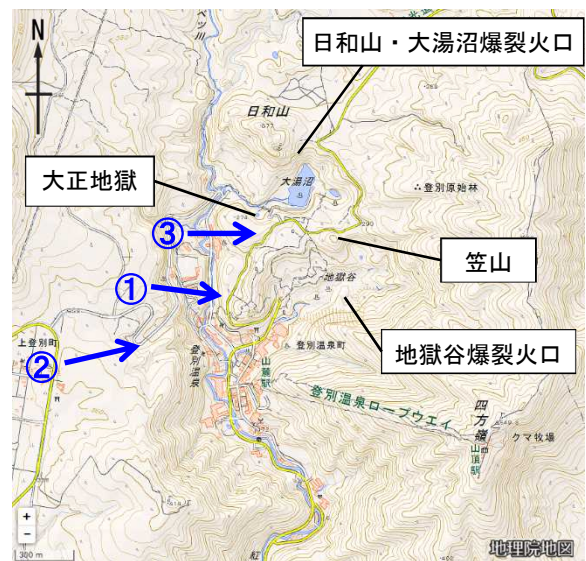
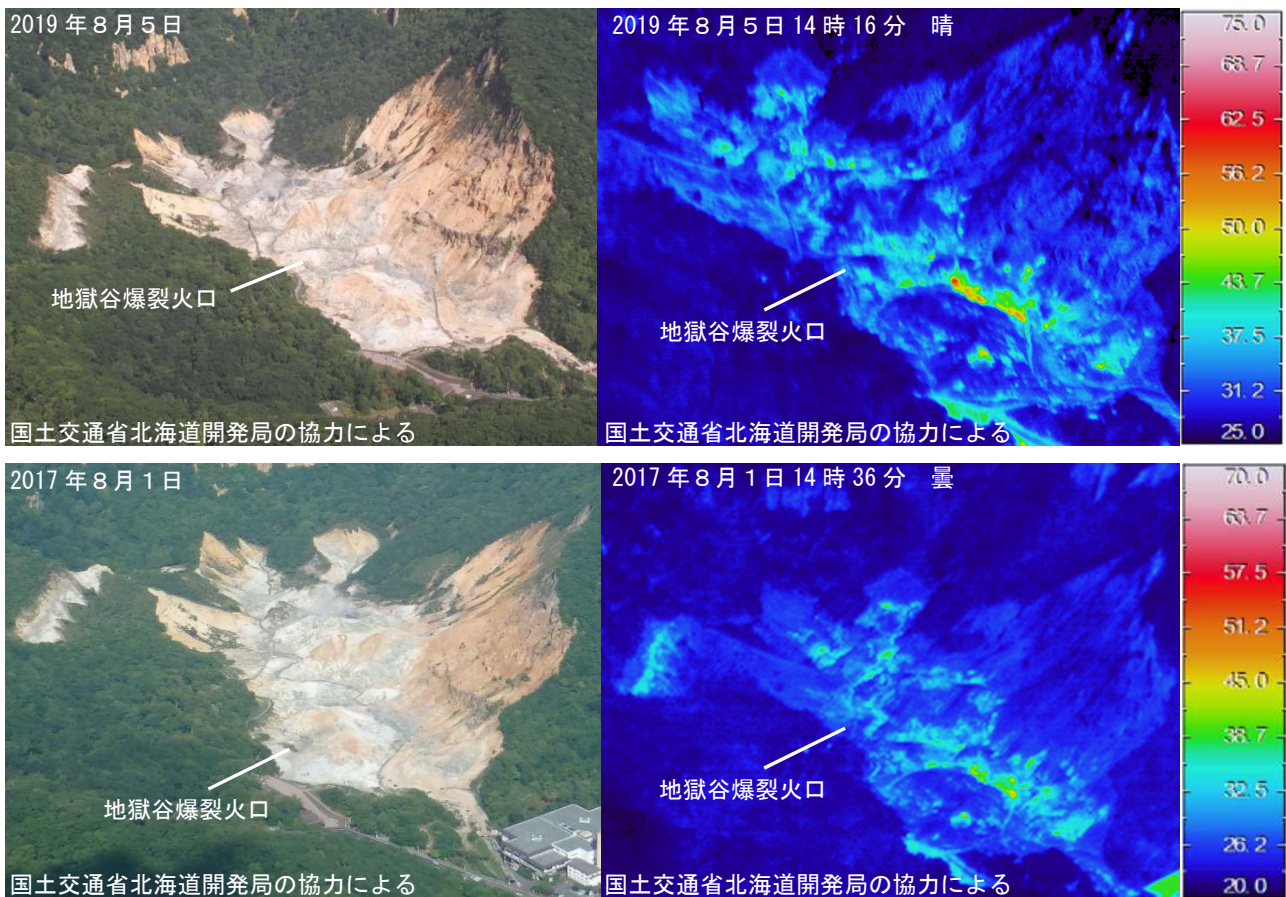
・ 倶多楽周辺で、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。



GNSS連続観測点配置図
（国）：国土地理院



図2 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（8月24日、414m山監視カメラによる）



赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

図3 倶多楽 赤外熱映像装置による地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

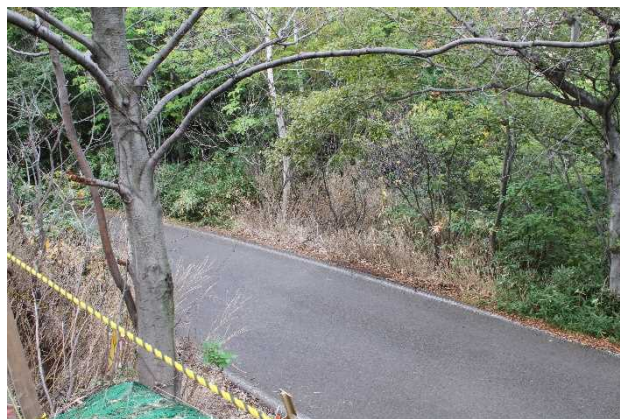
上：西側上空（撮影方向①）から撮影

下：西南西側上空（撮影方向②）から撮影

- ・地獄谷爆裂火口の噴気や地表面温度分布に、特段の変化は認められませんでした。



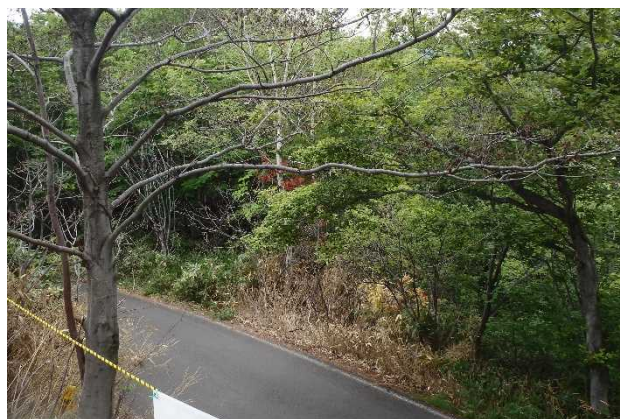
2019年8月30日 Aから撮影



2019年8月30日 Bから撮影



2019年7月8日 Aから撮影



2019年7月8日 Bから撮影



2019年8月5日
国土交通省北海道開発局の協力による
笠山周辺の植生が枯れている領域 全景（図3の撮影方向③から撮影）

図4 倶多楽 笠山周辺で植生が枯れている領域の状況
・笠山周辺で認められている、地中温度上昇に伴って植生が枯れている領域について、前月（7月8日）と比較し、その広がり等に大きな変化は認められませんでした。

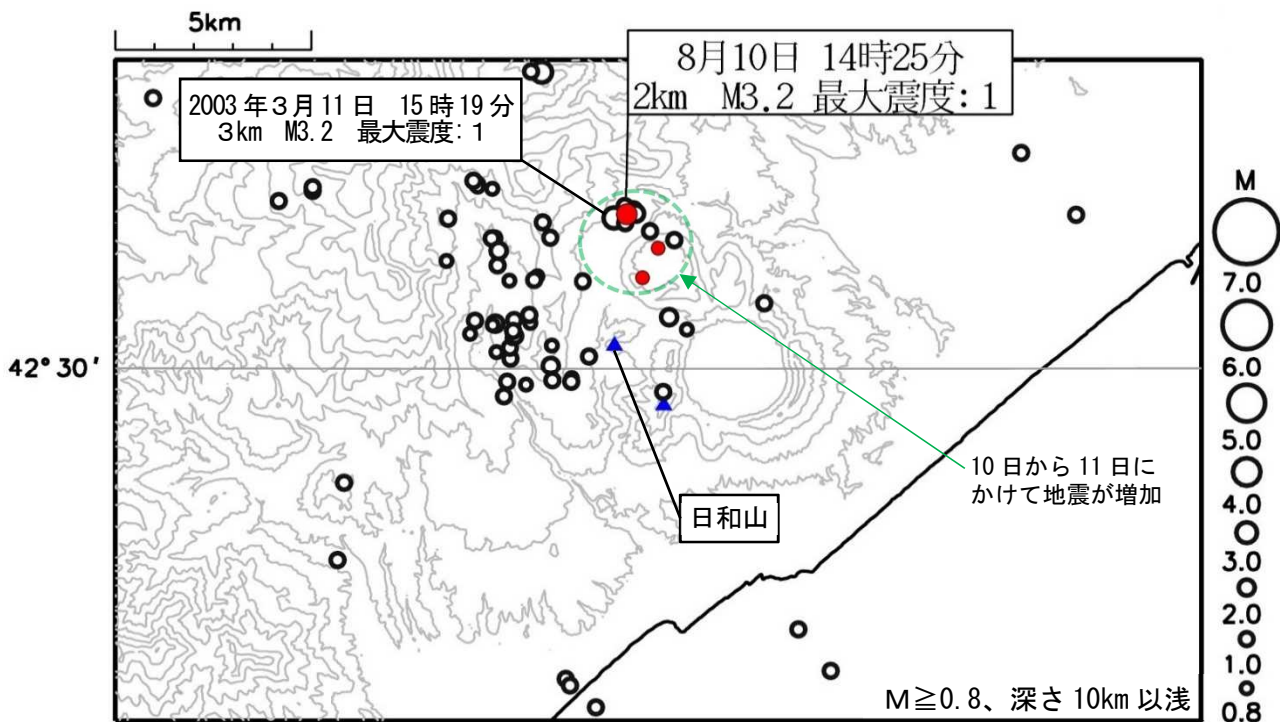


図5 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動（1997年10月～2019年8月）

○印：1997年10月～2019年7月の震源

●印：2019年8月の震源

- ・10日から11日にかけて、日和山の北約4km付近（図中緑破線円付近）で地震が一時的に増加しました。

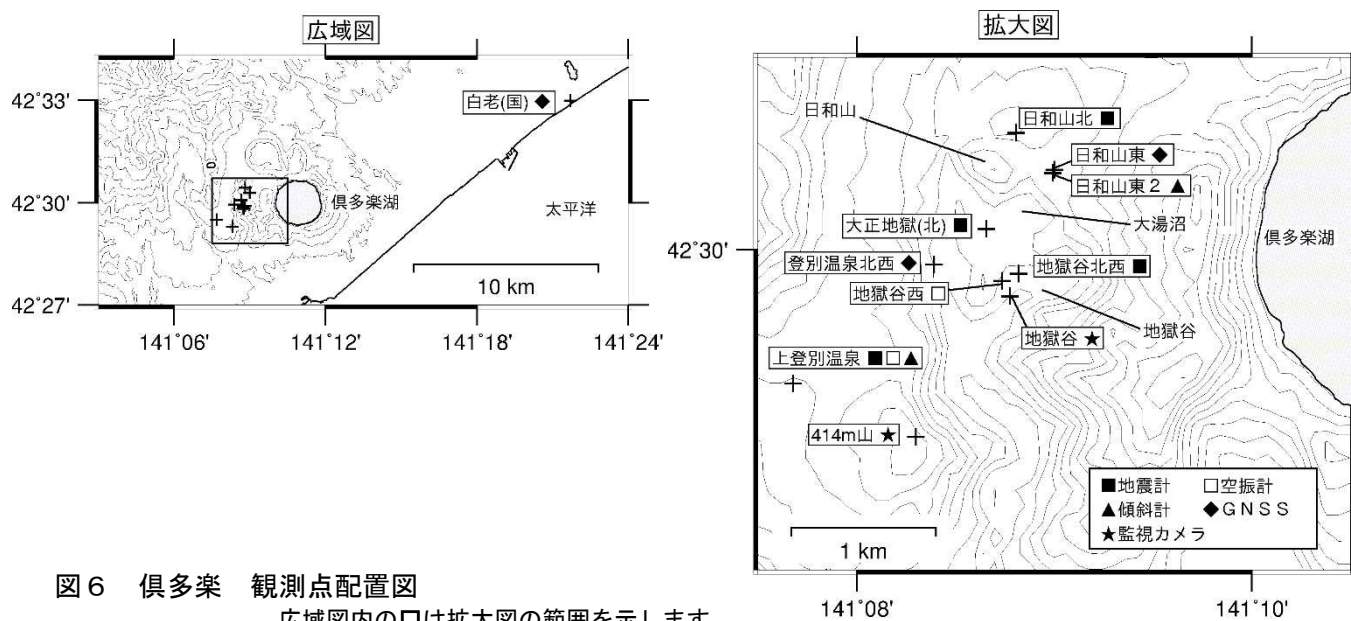


図6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学